

★ 提案 58 の賛成意見 ★

提案 58 によって、すべての生徒ができるだけ早く英語の実力を得ることができます。

あまりにも多くの California 州の生徒が取り残されており、可能な限り最も効果的な指導方法で英語を学習する機会を与えていません。これは、時代遅れの、ほぼ 20 年前の法律である、提案 227 によるものであり、それは学区で英語を指導するために使うことができる指導方法を制限しているからです。

提案 58 は提案 227 を修正し、これらの制限を取り除いて、学校が生徒の学習に役立つ最新の指導方法を使用できるようにします。

提案 58 は：・地域の学区に、それらの K-12 地域の管理および説明責任計画の中で、確実にすべての生徒ができるだけ速く英語に熟達するようになるのを助けるために彼らが提供する教育方法を特定することを要求します。・学校に、英語学習者のための構成された英語没入法教育プログラムを提供するように要求します。しかし、学校は、また、研究および利害関係者のアドバイスに基づくその他の言語指導方法を採用することも可能です。・学区は、教育者、保護者、および地域社会からアドバイスを求めなければなりません。

提案 58 は、また、英語を話す人が第二言語を学習する機会を拡大します。

提案 58 は、多言語教育を拡大することによって、元気をくじく学校によって生徒を傷つけている障壁を取り除きます。提案 58 は、生まれつき英語を話す人が、第二言語で習熟することを可能にするように、学区に指導プログラムを提供することを奨励します。

・学区は、その年間の K-12 地域の管理および説明責任計画に、英語を話す生徒に第二言語での習熟を実現する機会を提供するプログラムを含めなければなりません。・学区の非英語の選択は、保護者、地域社会のアドバイス、および学校の言語学的ならびに財政的資源の投入を反映しなければなりません。・研究では、複数の言語で教えられるプログラムに参加している生徒は、より高い学業成績の水準を達成することが判明しています。

提案 58 は、この地域の学校への地域の管理を回復します。

提案 58 では、数十年前の法律によって課された法的制約のない、

生徒の成績を向上する最も最新の言語指導方法を地域の学区が選択することを可能にしています。

提案 58 は、私たちの子どもたち、および私たちの州のためにより良い未来をもたらします。

世界経済は、急速に変化しています。今日では、技術によって、最も小さい企業でも海外展開することができます。英語および第二言語に習熟している生徒は、より多くの雇用対象となり、より高い賃金を獲得し始め、California 州の労働力をグローバル経済での仕事で競争するためにより良く用意されたものにします。

提案 58 は、地域の学区、教育者、保護者、および雇用主からの広い層に基盤を持った支持があります。

地域の学校に、それらが生徒の成績を向上させるために必要なツールを提供することは、一方に偏した、または政治的な問題ではありません。提案 58 は、立法機関の超党派的な投票によって投票用紙に掲載されました。提案 58 の、この地域の学校の言語指導を改善するための常識改革の支持は、以下を含む広い層の基盤があります：地域教育委員会 (California 州教育委員会協会)、教師 (California 州語学教師協会、California 州教職員協会、California 州教職員連盟、保護者 (California 州 PTA)、および雇用主 (San Jose/Silicon Valley および Los Angeles 商工会議所を含む)。

提案 58 の改革によって、学校は、言語指導の最新の方法を採用することができ、それによって生徒の成績を向上させ、納税者の税金をより良く使用することができるようになります。

詳細情報については、以下をご参照ください
www.SupportProp58.com。

提案 58 に「YES (賛成票)」を投じてください。

LENORA LACY BARNES、副理事長
California 州教職員連盟

CHRIS UNGAR、会長
California 州教育委員会協会

TANYA ZACCONE、事務局長
California 州語学教師協会

★ 提案 58 の賛成意見に対する反論 ★

二十年前、California 州の学校は、数十万名の子どもたちを強制的なほばスペイン語のみの教室に無理やり入学させていました。生徒、彼らの保護者、および雇用主は、それらの時代に戻りたくありませんが、二言語併用教育の「ロビー (圧力団体)」と教職員組合、そして提案 58 を投票用紙に載せた政治家は、戻ることを望んでいます。

私たちは、それに反対票を入れた多くの議員の中の二人で、皆さんにも同様に「NO (反対票)」を投じていただくよう強くお願いしています。

1998 年に、California 州の投票権者は、子どもたちは、その保護者が反対である場合を除き、この地域の学校で英語を教えられることが必要であるという発議を承認しました。彼らは、生まれつき英語を話す人ではない子どもたちは、「二か国語」の授業であまりに長くもがき続け、まったく前進しなかったのをこれを行いました。

その結果は、素晴らしいものになっています。子どもたちは、何年にもわたって長引かせられた「二か国語プログラム」に押し込まれた時より速く英語を学習しています。彼らは、より若い年齢

でより速く英語を学習するので、記録的な数の移民の生徒たちが、私たちの州のカレッジや大学への入学を実現しています。

提案を支持している人々。58 は、これらのいわゆる「語学教師」が、二か国語授業に生徒たちが留まる限り、この地域の学校のみで職を得られるので変更を望むものです。教師およびその労働組合が利益を得て、子どもたちの利得にはなりません。

提案 58 は、私たちが英語を教授する方法を現代化することではなく、彼らの両親の願望に反して英語指導の失敗した方法を移民者の子どもたちに押しつけることです

提案 58 は、彼らの子どもに英語教育を受けさせる既存の親の権利を排除するものです。

この見せかけの投票法案に「NO (反対)」票を投じてください。

SHANNON GROVE、女性議員
Bakersfield

JOEL ANDERSON、上院議員
San Diego 郡

★ 提案 58 の反対意見 ★

この投票法案は、SACRAMENTO の政治家による不誠実な策略です

● 提案 58 の公式名称は、「English Language Education (英語教育)」です。しかし、実際には、子どもたちは、California 州公立学校で英語を教わるという要件を「撤廃する」ものです。それは、すべて、1998 年の発議である「English for the Children」、すなわち提案 227 を抵抗できないほど圧倒的に通過させた有権者の皆さんをだますための Sacramento 市政政治家による策略です。● 提案 58 の最悪の部分は、セクション 8 に隠されており、そこでは California 州議会が今後改正を行うことについてのすべての制限事項を廃止しています。これによって、議会は、簡単な大多数の投票によって、公立学校でのほぼスペイン語のみの指導を再構築することが可能になり、もう一度ラテンアメリカ系の子どもたちを彼らの保護者の希望に反するそれらの授業に押しつけるようになります。● この地域の公立学校で英語を教えることは、移民が非移民か、ラテンアメリカ系かアングロサクソン系か、アジア人が黒人かを問わず、California 州保護者によって圧倒的に支持されています。それが、政治家が人を欺くような名称を使うことによって有権者をだまそうとしている理由です。

「NO (反対)」票を投じて、「ENGLISH FOR THE CHILDREN (子どもたちのための英語)」を維持してください — それは機能します！

● 何十年間もの間、何百万人ものラテンアメリカ系の子どもたちは、不誠実にも「bilingual education 二言語併用教育」と呼ばれる SPANISH-ALMOST-ONLY ほぼスペイン語のみの授業に押し込まれていました。それは、教育的災害であり決して機能することはありません。多くのラテン系アメリカ人は、英語の読み方、書き方、または話し方さえも学んでいません。● しかし 1998 年に、California 州の投票権者は、圧倒的多数で提案 227 — 「English for the Children (子どもたちのための英語)」発議 — 遮へいされた英語の没入法教育を移民者の生徒に提供し、彼らが学校生

活を始めるとすぐに英語を教えられることが必要である — を通過させました。● *Stand and Deliver* (金を出せ) で有名な Jaime Escalante、アメリカで最も成功した教師の一人が、その提案 227 キャンペーンを名誉議長として先導し、スペイン語のみの教育的ゲッターから California 州のラテン系アメリカ人を救いました。● それは機能しました！四年以内に、California 州の移民の百万人以上の生徒のテストの得点は、30%、50%、または 100%にまでも上昇しました。● 主要な新聞はすべて、全国紙の *New York Times* までもが、新しい英語没入法教育システムは巨大な教育的成功であると言明しました。● 前 Oceanside 統合教育区教育長は三十年間、二ヶ国語教育について間違った考えを持ってき彼が三十年間、二言語併用教育について間違った考えをもってきたこと、そして英語没入法教育の国の主唱者になることを発表しました。● 「English for the Children (子どもたちのための英語)」が通過して以来、名門のカリフォルニア大学システムへの入学を取得するために十分高い点数を取るラテン系アメリカ人の数が莫大に増加しました。● 提案 227 は、California 州学校で非常によく機能したので、問題全体が、二言語併用教育の活動家を除き、ほぼすべての人々によって忘れられました。現在、彼らは必須のほぼスペイン語のみの授業の復元ができるようになるように、有権者の皆さんを策略にかけようとしています。

「NO (反対)」票を投じて、「English for the Children (子どもたちのための英語)」を維持し、Jaime Escalante の California 州移民の小中学生教育的遺産を守ってください。

詳細については、以下の私たちのサイトをご覧ください
www.KeepEnglish.org

RON UNZ、議長

子どもたちに英語を

KENNETH A. NOONAN、

前 Oceanside 統合教育区教育長

★ 提案 58 の反対意見に対する反論 ★

提案 58 によって、すべての生徒が、確実に可能な限り速く英語の実力を得ることができます。提案 58 は、英語を話す人が第二言語を習得する機会を拡大します。

それが、提案 58 が、私たちの州の教育者のリーダーおよび保護者の主唱者 — 教室の教師、州の PTA、学校長、および地域の教育委員会の委員 — そして知事 Jerry Brown によって支持されている理由です。

提案 58 は、「DISHONEST TRICK 不誠実な策略」ではありません。対抗者の「恐怖戦術」にだまされないでください。提案 58 は、「必須の Spanish-almost-only ほとんどスペイン語のみの授業」に賛成して英語指導を廃止するための「策略」ではありません。ここに提案 58 が実際に主張する内容を明記します：

● 学区は、その生徒たちに「できるだけ速く、かつ効果的に英語習得を確実にするように考えられた」、「有効かつ適切な」言語習得プログラムを提供しなければなりません。(教育法典、第 305(a)(1) 条、および第 306(c) 条)。● 「すべての California 州の小中学生は、無料の公教育および英語の公教育を提供される権利を有する。」(教育法典 第 320 条)。● 学区は、「最低限でも構成された英語没入法教育を英語学習者に提供しなければならない」(教育法典 第 305(a)(2) 条)。

証拠は、対抗者の申し立てを裏付けていません。対抗者は、提案 227 は、広く成功したと申し立てていますが、アメリカの研究会による五年間の総合的評価は、彼らの申し立てを裏付ける「決定的証拠はない」と結論づけました。

教育者および保護者は、対抗する恐怖戦術を拒否するようお願いします。提案 58 の下で、地域の学区は、— 保護者、教育者、および彼らの地域社会からのアドバイスによって — 彼らの生徒たちが可能な限り速く、英語運用能力を身に付け、そして英語を話す人が第二言語を習得する機会を拡大するために、最も適切な言語指導アプローチを決定することになります。

地域の子どもたちと地域の学校をご支援ください。提案 58 に賛成票を投じてください。

JUSTINE FISCHER、会長

California 州の PTA

TOM TORLAKSON、州の公共指導監督者

RALPH GOMEZ PORRAS、会長

California 州学校管理者協会